

特 集/集落座談会「町長と語ろう」55集落を振り返って
町政スポット/ふれあい社増築工事竣工式 種田保全活動が全国表彰
生涯学習推進大会 ほか
まちな話 題/ワインの夕べ 町体育協会表彰 ジュニアスキー大会
創造塾 おらほの町の酒蔵を訪ねる ほか

掛け軸に校長の思いを託して

卒業式間近のお茶会
(3月1日・大谷小学校)

広報

あさひまち

2006年3月号
No. 532



6月10日の大暮山を皮切りに「町長と語ろう」がスタートした

特集 集落座談会「町長と語ろう」55集落を振り返って

協働の町づくりに 私はこう思い・考え・行動する

私たちが直面している今日の社会は、人口減少や少子高齢化、低迷する地域経済などが原因と思われる、いままでに経験したことのない多くの課題を抱えています。先行きへの不安や悩みを持ちながら、その課題に対して向き合い、克服していくために努力し、

町民は日々何を思い 日々生活しているか

(開催の趣旨)

喜びや苦しみ、怒りなどを感じながら生活している人も多いのではないのでしょうか。また、自分たちの住む地域や町づくりについての考えを持ちながらも提示できる機会がない人、女性や若者、お年寄りなど、社会を構成する多くの人たちと意見交換していくことが、「町民の目線に立った町づくり」の原点であるとの趣旨で、町長自らが町内全集落に出向く座談会を開催しました。

限られた財源の中で、無駄がなく効率の良い町政運営をこれから進めていくには、町民と行政との協働による町づくりを欠かすことはできません。それを具現化していくための行政側の姿勢として「町民の目線に立った町政運営」がたいへん重要になってきます。

今、町民が望んでいることは何なのか？今後の町づくりの在り方などに対する提案など、町民の生の声をお聞きしようと、町長自らが町内全集落に出向く「町長と語ろう」が、昨年6月10日の大暮山を皮切りにスタート。12月20日の本町で全集落を回り終え、その間、様々な意見や要望、町政運営への提案などをいただいたところです。

今回の特集では、半年に渡り開催された「町長と語ろう」を振り返り、町長がめざす“町民の目線に立った町づくり”とは何なのかについて考えます。

(表1) 参加状況

No.	地区名	開催月日	男性	女性	合計	世帯数に対する参加者数の割合(%)
1	本町	12/20	22	0	22	30.1
2	西町	11/9	32	22	54	47.0
3	栄町	12/19	20	11	31	53.4
4	助ノ巻	7/22	8	12	20	35.7
5	大町	9/5	29	11	40	29.4
6	元町	9/3	11	16	27	42.4
7	西原	11/21	7	5	12	54.5
8	前田	6/16	19	6	25	37.3
9	新宿	10/3	21	11	32	59.3
10	四ノ沢	11/24	8	3	11	8.2
11	小原	8/26	17	6	23	54.8
12	宿	8/9	10	2	12	33.3
13	沼向	9/8	15	6	21	37.5
14	平	6/28	12	3	15	93.8
15	大隅	12/9	9	2	11	36.7
16	古楨	12/6	8	3	11	39.3
17	送橋	8/22	10	9	19	50.0
18	下芦	10/11	7	5	12	42.9
19	水本	11/16	14	1	15	60.0
20	杉山	7/14	17	9	26	86.7
21	松原・宇津野	7/6	13	9	22	27.8
22	大滝	7/12	7	6	13	52.0
23	雪谷	10/2	8	0	8	57.1
24	緑町	10/14	9	4	13	31.7
中部計			333	162	495	39.1
25	常盤	8/29	29	13	42	40.4
26	夏草	9/30	13	14	27	50.0
27	長沼	7/4	13	9	22	115.8
28	西船渡	11/8	18	8	26	56.5
29	八ツ沼	12/7	9	1	10	22.2
30	能中	9/26	25	17	42	107.7
31	高田	10/12	12	8	20	125.0
32	太郎一二三	10/26	30	19	49	42.2
33	石須部	11/17	6	8	14	127.3
34	立木	10/18	21	13	34	82.9
35	白倉	10/13	9	5	14	140.0
36	松程	9/6	28	11	39	37.5
37	大船木	6/29	13	8	21	84.0
38	今平	10/27	9	7	16	106.7
西部計			235	141	376	58.3
39	大谷一	10/24	17	19	36	100.0
40	大谷二	9/9	16	11	27	71.1
41	大谷三	9/10	23	12	35	87.5
42	大谷四	10/4	12	10	22	17.7
43	大谷五	7/15	42	6	48	62.3
44	大谷六	10/25	26	11	37	84.1
45	大谷七	8/23	10	9	19	146.2
46	中沢	11/18	14	8	22	57.9
47	真中	7/2	26	6	32	78.0
48	舟渡	8/1	19	6	25	83.3
49	栗木	6/17	20	6	26	32.1
50	川通	8/8	14	7	21	110.5
51	大暮	6/10	21	11	32	88.9
52	大沼	11/2	14	3	17	51.5
北部計			274	125	399	61.4
合計			842	428	1,270	49.6

※世帯数は平成17年10月1日現在の住民基本台帳上の数値です。

信頼関係の礎を築くために

朝日町長 鈴木浩幸



「町長と語りつ」の座談会の開催がきっかけとして、各区長さんをはじめ、各地区民の皆様方に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。

私も行政だけでは目的を達成できないこの事業。いくらこの事業の開催を企画しましても、町民の皆さんの参加なしでは為し得ない事業なのであります。

「協働」といふ言葉が、盛んに飛び交う昨今の地域状況ではありますが、果たして「協働」とは何だろうかという疑問をもち、この新しい言葉が、具体的に町民の皆さんの胸に響くのだろうか、私自身疑問を抱くことがあります。言葉だけが一人歩きをします。

て、その実態が伴わない現実。そういつたことが世の中には往々にしてあるものです。人はお互いに語り合い、そしてお互いの話を聞くことにより、お互いの考え、状況を理解し、そこから新たな考え、解決の方向を見出すことができるのです。

そしてまた、このようにして意思の疎通を図ることこそが、互いの信頼関係の礎を築くことになると思っています。いずれの場合にも当てはまることは思いますが、特に

町づくりにあいては、行政と町民の皆さんの信頼関係は、欠かすことのできない最も重要な事柄の一つです。

町民の皆さんの目線に立つた行政とは、また、「協働」の町づくりにあいては、まさに町民の皆さんと行政の信頼関係の上に立つた行政運営であり、町づくりにあいては、町づくりに向けた方向に違つことなく、その方向に違つことなく、これからも町政運営に当たって参りたいとの考えのもと、来年度、再来年度もこの「町長と語りつ」を実施して参ります。

誰もが発言しやすいお茶飲み話の雰囲気です

ますので、よろしくお願ひ申し上げます。

(座談会の持ち方への工夫) 座談会のテーマは「町づくりに私はこう思い・考え・行動する」でした。

各集落にはそれぞれの特色や諸事情もあることから、区長さんや役員の方々と事前に打ち合わせを行い、特に女性と若者の参加を呼びかけました。

会場の設営に関しても、座談会の方が堅苦しくならないよう車座形式にしたほか、司会進行には若手の女性職員を当てました。また、随行する行政側の参加は記録係一人にとどめることで、誰もが発言しやすい雰囲気づくりをめざしてきたところです。できる限り多くの参加者が発言の機会を得られるよう、町長と参加者が交互に発言する対話式にしたところも工夫をさせていただきます。また、町民のみなさん



膝を交えてという町長の気持ち が町民に伝わった座談会だった

常盤区長 長岡米吉 さん

以前、町長以下各課の課長を先頭にした数班編制での町政座談会が行われていたのを思い出しますが、記憶としては町が主体となって進んでいた一方的な座談会だったと思います。

しかし、今回の座談会は違っていました。形式が車座の形で町長をととも身近に感じることができ、膝を交えてという町長の気持ちが区民にも伝わったのではないかと思います。

また、一戸一人に限らず、特に女性や若い人たちの参加を呼びかけたことも良かったと思います。その呼びかけに応えようと常盤区では、区独自に作成したチラシを全戸に配布するとともに、婦人会や若妻会などの区内にあるグループの長に声かけをしたところ、予想以上に女性の参加を得ることができたと感じています。

ただ、町政運営に町民の声を反映させる意図で「町づくりへの提案」などを主にお願ひしたいとする座談会の趣旨が、全体的に伝わらなかったと思います。事前に区長との打ち合わせを済ませ、行政への要望等については最後に集中して回答していただく進め方は、限られた時間の中で効率的だったと思いますが、もしかしたら初回から町民にそれを要求するのは無理なことなのかもしれません。

この座談会は今回だけではなく次年度も実施したいという町長の意向もあるようなので、ぜひこのパターンで3年くらいは継続してもらいたいと思います。「町づくりへの提案」がこの座談会の基本的な形として町民に定着するまで、今回のような“車座”“3人くらいの少人数による班編制”“場が和む女性職員の司会進行”などの形は変えないでいってほしいと思います。

決定などについて、これまでほとんど男性が行っており、地区や行政組織等の主要な地区にも主に男性が就いているのが実情です。やはり、男性優位の考え方が長く続いた結果と言えるでしょう。

今日の最大の課題である少子化高齢化は、男性の視点や論理だけで対応できるものではありません。それを踏まえ、女性の声を町政に反映させるために今年度「女性井戸端会議」を立ち上げましたが、更に多くの女性の声をお聞きしたいというのが、今回の座談会の目的の一つです。

振り返ってみると、自治公民館活動の盛んな地域や町外から来られた女性は、何らかの考えをもって発言される傾向が強かったようですが、多くは司会が発言を求めてからという控えめなところが見受けられたような気がします。

しかし、それらの発言の多くは、保育園、子育て支援、介護、教育など身近な日常生活において感じる改善事項や施策の創設など。女性の視点ならではのきめの細かい意見が多く出されました。

座談会の進行役として、各地区の町長と語ろうへ出席させていたのですが、座談会の目的にもあつたように、堅苦しくない雰囲気、多くの方から、口頃感している事などを、率直にお話いただけような進め方をしたいと考えていました。

しかし、「どんな事でもいいからと言われても、どのような事を？」と戸惑わせてしまったり、意見が途切れた時にうまく次の方の意見を引き出せなかったり…。

私たちは、お互いの座談会が終わるたびにその様子について情報交換をし合い、進め方を考えながら回を重ねてきましたが、限られた時間の中で、その地区の雰囲気を感じ取り、その場にあつた進め方

との間に見えない壁を設けることなく、町長と町民のみなさんが膝を交え、同じ目線に立って、いわゆる「お茶飲み話」の雰囲気を作っていたらと考えたところです。

その結果、関心度の高かった「人口一万人復活構想」についてや、福祉、介護、教育、地域づくりなどの主にソフト的な分野をテーマに、一時間

三十分という限られた時間を有効に使った活発な意見交換が行われました。

以前は、道路や施設整備などハード的な分野への要望が圧倒的に多かったのですが、町や集落の将来の姿、産業の振興、介護、教育などへの関心度が高く、町民のみなさんの感情や課題が浮かび上がってきました。

**女性の感性が生きる
町づくりをめざす**

(女性の視点の必要性)

社会を構成する人口の半数は女性であり、男女共同参画社会の実現が求められているのは、みなさんもご承知のとおりです。

しかしながら、主要な意思



可能な限り多くの人の
声を引き出したい
(司会担当女性職員の感想)

協働の町づくりに 私はこう思い・考え・行動する

意見やご要望は、全て記録し全課に配布。今後の対応等について協議をしています。
可能なものについては、即時対応したほか、平成十八年度予算に反映したものの、基本計画に組み入れて実施していくもの、今後の施策として創設すべきもの、これらに分類して随時対応していくこととなります。

一方、地区の努力で解決すべきもの、集落間あるいは行政を含む他の団体と協議して解決すべきものなどがあります。それぞれの役割を明確にした上で、町民との協働による取り組みを最優先にし、対応していきたいと思えます。

なお、対応の状況については、年度内に区長さん宛に文書で通知し、区民のみなさんにもお知らせしていただくことにしています。

(表2) 要望事項の内訳

分類	件数	説明	割合(%)
建設	49	国県道・河川・町道改良など	29.2
産業・経済	21	官公・企業誘致を含む	12.5
福祉・介護・保育	19		11.3
総合交通	14	町営バス・通学バス・通学タクシー	8.3
地域振興	13	コミュニティ・結婚対策含む	7.7
防災・消防	11	警鐘台・消防団員確保	6.5
施設整備	10	地区公民館含む	6.0
雪対策(除雪・克雪)	8		4.8
教育	7	学校教育・文化振興	4.2
行政運営	7	職員姿勢	4.2
環境(ゴミ・公害)	6		3.6
情報化	3	情報基盤整備	1.8
計	168		100.0

(表3) 意見の内訳

分類	件数	説明	割合(%)
地域振興策	22	集落の存続・町づくり	19.8
農業施策	17	りんご産業・後継者問題	15.3
介護・福祉	13	施設介護・地域介護体制	11.7
観光施策	9	自然観・直売施設	8.1
行政運営	8	人材育成・リーダーシップ	7.2
行財政改革	7	町財政のゆくえ	6.3
雪対策	4	除雪・雪下ろし・区道除雪	3.6
町立病院	4	受診形態	3.6
地域づくり(協働)	4	町職員による集落パートナー制度	3.6
情報化	4	情報基盤の整備	3.6
環境(ゴミ・公害)	4	ゴミ袋・分別	3.6
男女共同参画	3	女性の登用	2.7
住宅団地整備	3	若者住宅・他町と比較した優位性	2.7
企業誘致	2	海外移転→国内	1.8
定住対策	1		0.9
総合交通	1	山形直行バス運行	0.9
消防防災	1	部の存続	0.9
市町村合併	1		0.9
広報広聴	1		0.9
その他	2		1.8
計	111		100.0

**可能なことは即時対応
来年度の予算にも反映**

(事後処理・施策への反映)
各地区において出されたご

意見やご要望は、全て記録し全課に配布。今後の対応等について協議をしています。
可能なものについては、即時対応したほか、平成十八年度予算に反映したものの、基本計画に組み入れて実施していくもの、今後の施策として創設すべきもの、これらに分類して随時対応していくこととなります。

**より内容を充実し
来年度も実施**

(よりテーマを絞って…)

各地区の座談会はこの数年実施していなかったことから、今回の座談会には、町民の方々と膝を交えて話し合い、思いを肌で感じ、同じ目線で町政に取り組みたいという町長の強い意志がありました。
結果的に、広く浅い内容の

座談会となった感があります。が、もう少し具体的な話し合いをしたかったという方もいたのではないかと思います。
来年度は、特に自立の町づくりや集落の課題などにテーマを絞り、座談会を開催する案を現在練っています。事務レベルでの検討や区長会とも協議をし、町民と協働による地域経営や町づくりに生かすことのできる内容の座談会をめざしていきます。

をするのに大変苦慮しました。そういった意味で、皆さんから満足いただける座談会の進行ではなかったと思います。
今回、各地区の公民館へ伺い、町民の皆さんと膝を交え、直に話をお聞きすることができました。私たちが暮らすこの町の将来について、町民の皆さんと一緒に考えていかなければならないことの重要性を、肌で実感したところです。

税務町民課主任 伊藤博美



ふれあい荘短期入所サービス・デイサービスセンター増築工事竣工式

少子高齢化が進み手狭になった既存施設の充足を図ろうと、昨年の6月10日に起工式を行った特別養護老人ホームふれあい荘のショートステイ（短期入所）及びデイサービスセンターの増築工事が一部外構工事を残すのみとなり、施設棟の完成を祝う竣工式が3月3日、関係者ら41人が参加し現地で開催されました。

今回が2度目となる増築工事。鉄骨平屋建てで床面積が約1,014㎡の施設を既存施設の南側に整備したもので、事業費は約2億7,400万円。

これにより、デイサービスの一日の利用者は、これまでより10人多い35人になるほか、これまでの施設にはなかったショートステイ専用の個室が9部屋設けられました。また、8人の常勤職員など新たな雇用が見込まれています。

施設を運営する社会福祉法人朝日町福祉会の保利貞雄理事長は、式典の中で「施設の充実と相まって“誠意・愛情・謙虚”を介護の理念とし、地域福祉の拠点施設に恥じない質の高いサービスの提供に努力する」と式辞を述べました。



スマートIC利用者10万台達成

高速交通網の利便性の向上による地域活性化を目的に「寒河江 S A サービスエリア スマート I C インターチェンジ」を設置し、平成16年12月から社会実験を行ってきました。利用者は日々増加しており、1月30日には利用台数が10万台を突破。それを記念し、地元特産品等が当たる利用促進キャンペーンが、2月6日から3日間開催されました。

利用促進を呼びかけるチラシ1,200枚をIC出入口で配布。そのうち597通の応募があり、朝日自然観コテージ宿泊券やりんご温泉入浴券をはじめとする各種賞品が150名の方に発送されました。

当町においても、地域の高速交通網の起点として重要な位置を占めてきており、今後も国に対して恒久設置を要望していくことにしています。



棚田保全活動が全国表彰受賞

くぬぎだいら 榎平 棚田保全推進委員会（志藤勝幸会長）が中心となりこれまで展開してきた棚田の保全活動が、このたび「第1回美の里づくりコンクール」で農林水産省農村振興局長賞に選ばれました。

このコンクールは、国民共通の財産である美しい農山漁村を各地で次世代に継承していく活動を啓発していこうと、農林水産省などが今年度から創設し実施したもの。地域住民らが中心となりワークショップ（地域の良さをみんなで考える集会）を開催。そこで作り上げた活動計画を企業やNPO、行政など多様な団体と連携しながら実践していくことで、棚田や地域独自の景観が保全されていること。また、近隣地域にもこの活動が波及していることなどに高い評価が得られたものです。



「地域資源を活かしたまちづくりを進めよう」をテーマに、第18回町生涯学習推進大会が2月26日創遊館で開催されました。町民ら約370人が参加。送橋公民館(海野和博館長)活動など3団体による学習活動の事例が発表されました。

「背中で語る男たち—地域振興の実践例を語る—」と題して講演した(株)大沼取締役専務の落合春信氏(上写真)は、町内にある公民館を利用し様々な素材を足元から見つめ直す“宝さがし運動”の実践を呼びかけるとともに、「地域づくりには前向きに頑張っていてやっぴこうという志が大切である」と語りました。

女性井戸端会議 町づくりに提案

女性の感性を町づくりに反映させたいという趣旨から、昨年の6月30日より月1回のペースで計9回行われた女性井戸端会議(安藤光永代表)。今回は「食」を中心にした話し合いが行われました。

3月7日、安藤代表ら2人が役場を訪れ、町の将来を担う子どもたちの食生活が乱れていることを指摘し、『朝ごはんを食べよう運動』の町を挙げた取り組みが必要とする提案書を町長に手渡しました。



町長に提案書を手渡す安藤代表(中央)と関口さん

全国町村議会議長会自治功労者表彰

多年にわたり町村議会のために尽力し、地方自治の振興発展に貢献したとして、山形県町村議会議長会前副会長(併せて村山地方町村議会議長会長)の川口幸次郎前町議会議長がこのたび、全国町村議会議長会自治功労(特別功労)者表彰を受賞。定例議会初日の3月9日、伝達式が行われました。



現在進行形 平成のRINGO PJ (vol.4)

第一期研修もわずかとなってきました。3月24日の成果発表会に向け、商品企画やマーケティングの座学、農産物の加工技術も追い込みに入っています。

加工技術については、講師と一緒にりんごや農産物等を使った様々な加工品を試作しています。講習のほかにも、仲間同士で復習・予習をしながら、自己研鑽をしています。まだまだ試行錯誤の状況ですが、安全で安心、朝日町が見える、思いがある、生活ができる、そんな商品の開発をめざしています。



中間発表会(1月28日)の様子

必ずある希望の光を信じて

十二月に降り始めた雪は止むことを知らず、今年の冬は記録的な豪雪になってしまいました。

そんな、豪雪だったこの冬も、二月も半ばより、しだいに晴れ間も続き、三月も半ばの今日に至っては、めっきり雪も静まり、春先めいた日和となつてきています。

私たちはどんなにその年が豪雪であつても、三寒四温の繰り返しの後には、必ず日差し木漏れる暖かな春が来ることを知っています。

人間にとって最も大事なことのひとつは、今がどんなに辛く苦しい時期にあつても、この先には必ず希望の光があると信じていることです。どんなに長いトンネルも、はるか遠くの出日からわずかに漏れる明るい光が、

私たちが希望の出口へと導いてくれるのです。

私が小学校三年生の時、校長先生からお聞きした「パンドラの箱」の話。ギリシャ神話の話で、ゼウスがパンドラに、あらゆる禍いを封じ込めて人間界に持たせてよこした箱で、これを開いたために不幸が飛び出したが、いそいで蓋をしたため希望だけが残ったという話です。

三月は卒業のシーズン。世の中は確実に時を刻み、人間は時とともに確かに一つのハードルを越えていきます。これから待ち受ける人生において、必ずある希望を信じ、そして自らも希望に向かって人生を前向きに歩いてもらえたら、必ずや皆さんの上に幸せが訪れて来るでしょう。

朝日町長 鈴木浩彦



町広報委員町づくり研修
宮城県鳴子町(2月21日)

まちの話題



沢内区民たちによる
パソコン教室(2月6日)

① 第10回ワインのタベ(2月18日/農業団地センター)



朝日町ワインのファンら約200人が集結

町商工会女性部(阿部玲子部長)が主催する「ワインのタベ」が2月18日、町農業団地センターで開催されました。町の活性化と地産地消が目的で始まったこのイベントも、今回が節目となる10回目。朝日町ワインをこよなく愛する約200人のファンが会場に詰めかけ、赤・白・ロゼの各種ワインと、たたきや砂肝のマリーネなどに調理された町特産のダチョウ料理などに舌鼓を打ちました。

会場には、昨年7月に開催された国産ワインコンクールで銅賞と

奨励賞を受賞したワインなど16種類が準備されたほか、「ワインに合った料理を！」と地元スーパーや女性部員らが腕を振るった料理18種類が所狭しと並べられ、見た目も豪華。今回初めて参加したという白鷹町の吉田あぐりさんは、「女性部の人たちの優しさと温かさに感動しています。料理もおいしいしワインも最高!言うことなし。この日だけでも朝日町民になってしまいたい気分。いいね朝日町」と、春を先駆けた町の一大イベントに大満足の様子でした。



② 高田区冬季(縄ない)レクリエーション大会(高田共同作業場/2月12日)



優勝記録は5分間で7.4m

高田区(佐竹庄吉区長)冬期レクリエーション大会が2月12日、高田共同作業場で開催され、区民ら20人が縄ないや輪投げなどの競技を楽しみました。

中でも、今年が2回目となる縄ない競技。引っ張っても切れない程度の縄を5分間で何センチ^{センチ}縋えるかを競うもの。その結果、長岡正さんが7.4メートルで優勝。2連覇を果たしました。昨年は10分間で10メートルが最高。同時間に換算すれば自己の持つ大会記録の更新です。

競技後は、ブナ林から湧き出る自然水を使い区民自らが栽培したソバを試食し、懇親を深めていました。

③朝日町体育協会表彰式(2月26日/創遊館)



殊勲賞10人 功労賞1人

この1年間、スポーツの分野で活躍したみなさんの功績をたたえる「朝日町体育協会表彰式」が2月26日、町生涯学習推進大会の席上、創遊館ホールで開催されました。受賞者を代表し山形城北高校3年の清野友理子さん(送橋;右上写真)は、「これまで苦しいこともあったが、指導者の方々をはじめ仲間や家族に支えられながら、たくさんの感動を経験することができた。これからも、いただいた賞を誇りに、一競技者また一人の人間として、一步でも成長できるよう頑張っていきたい」

とあいさつしました。

また、第5回全日本チアダンス選手権大会高校生ポンポン部門で優勝した山形北高チアリーダー部長の白田美咲さん(大谷一)には、国体やインターハイなどの全国レベルの大会で入賞した人に贈られる賞詞が、町長から授与されました。

受賞者のみなさん(①所属②競技種目③集落名)は次のとおりです。

【殊勲賞】菅井寛之(①法政大学3年②ケイリン③小原) 清野友理子(①山形城北高3年②卓球③送橋) 清野由依(①寒河江高2年②弓道③古楨) 佐藤弘歩(①日大山形高2年②バスケットボール③小原) 白田美咲(①山形北高2年②チアダンス③大谷一) 佐藤由美香(①山形北高2年②ソフトボール③新宿) 長岡清弥香(①寒河江高2年②剣道③松原) 村山仁(①酒田商業高1年②剣道③大谷七) 石井亜弥(①朝日中3年②柔道③大谷二) 堀和也(①朝日中3年②柔道③中沢)

【功労賞】遠藤秀蔵(②ゲートボール③栗木沢) 順不同、敬称略



④第8回朝日自然観ジュニアスキー大会(2月18日/朝日自然観スノーパーク)



各部門で優勝した選手たち

志藤茜選手が3年連続優勝

今年で8回目を迎える朝日自然観ジュニアスキー大会が2月18日、朝日自然観スノーパークのユージュゲレンデを会場に開催されました。

全長約200メートルの斜面に15本設置された旗門をクリアしていくスラローム競技に、町内全ての小学校の4年生から6年生まで、合わせて48人がエントリー。同じコースを2回滑りその合計タイムで争うもので、学年別、男女別に競技が行われました。旗門を果敢に攻める子どもたちの滑りに、ギャラリー



志藤 茜さん



諏訪 翔君

からは盛んな拍手と声援がおくられていました。

結果については、次のとおりです。

▽4年男子①最上峻太(大)②阿部航瑠(西)③東海林賢一(大)▽同女子①菅井桃香(宮)②齊藤彩美(西)③安藤美穂(宮)▽5年男子①村山晃規(宮)②阿部拓実(西)③白田篤史(大)▽同女子①阿部美咲(西)②阿部真里奈(西)③鈴木遥子(西)▽6年男子①諏訪翔(宮)②吉田光汰(宮)③渡邊拓哉(大)▽同女子①志藤茜(大)②松尾泰葉(宮)③浅岡優希(宮)

※(西)=西五百川小 (宮)=宮宿小 (大)=大谷小

※○内数字は順位

⑦昔話きいてみんなのつどい

(2月19日／創遊館)



いろいろ越しの語りに聞き入る

昔話きいてみんなのつどいが2月19日、創遊館で開催されました。語りの会つむぎ（鈴木直子会長）が主催し毎年この時期に実施しているもので今回が10回目。会場には子どもから大人まで約30人が集まり昔話を楽しみました。

古い民家をイメージさせる火鉢風のいろいろと障子用の屏風が設けられた会場で、綿入れ袴（はん）てんや袖（そで）無しをまとった語り部たち10人がそれぞれ1話ずつが語ったほか民話劇も披露されました。

⑤町連合カラオケ有志発表会(2月19日／農業団地センター)

限りなく広がる有志の和

町連合カラオケ有志発表会が2月19日、農業団地センターで開催されました。毎年この時期に、町連合カラオケ会（清野太郎連合会長）が主催し実施しているもの。今年で20回目を迎え、町内の地域カラオケ愛好会9団体から約160人が参加しました。

清野会長は「歌声の和が友達づくりの一環となり、その和が限りなく広がっていくのが一番です」と話してくれました。



⑥寒工高生「刺股」14本を寄贈(3月8日／創遊館)

後輩たちの安全を守るために

3月8日、県立寒河江工業高校生らが町教育委員会を訪れ、小中学校の防犯用にと刺股（さすまた）14本を寄贈しました。

朝日中出身の村山裕太さん（宇津野）と兼子舞希さん（大谷一）、高橋直人先生のほか、寒河江警察署の佐藤景三生活安全課長も同行し、同校機械科の1年生が製作した手作りの刺股を長岡教育長に手渡しました。



⑩消防図上訓練

(2月26日／開発センター)



有事の際の動きを検討

実火災を想定しての図面上における訓練が2月26日、開発センターホールで開催。町消防団分団要員以上の団員のほか幹部ら合わせて84人が参加しました。

冬季間の積雪等で本来使えるはずの水利が使えない場合など2件の火災を想定。それぞれのケースにおいて考えられる自分の部の動きや後続部隊との連携の取り方などについて検討しました。

⑨西村山協会長杯婦人バレー

(2月26日／大谷小学校)



明るく爽やかなプレー

西村山地区バレーボール協会（日塔章彦会長）長杯家庭婦人バレーボール大会が2月26日、大谷小学校体育館で開催されました。会場を管内持ち回りで、毎年この時期に実施しているもので今回が24回目。

寒河江西村山管内で登録している9団体のうち4チームが参加。当町からは朝日ママ（吉田恵監督）が出場し、明るく爽やかな汗を流していました。

⑧木製ベンチを寄贈

(2月23日／役場)



春を待ち10基を設置

県森林組合連合会（佐藤景一郎代表理事会長）と西村山地方森林組合（土田和一郎代表理事組合長）から2月23日、間伐材を利用した木製ベンチ10基を寄贈していただきました。

長さ150センチ、座部の奥行き42センチ、地面からの背もたれの高さが75センチのベンチで、重量感ある作りが特徴のベンチです。今後、雪解けを待ち、創遊館などの公共施設に設置されます。

まちの話題②

⑪生涯学習重点事業「創遊塾」(2月28日・3月8日・3月17日／創遊館)



食に関する本物とは何か？がテーマ

今年度の生涯学習重点事業である創遊塾が、2月28日を皮切りにして創遊館を会場に開催中です。住民一人ひとりの自立心と協働の理念に立った、楽しく住みよい地域づくりを進めるための学習の機会として、計3回の講座が組まれています。今回のテーマは、「本物とは何か—ほんもの食品を追求してきた人々に聞く—」。食に関するテーマとしては昨年

に引き続く内容。昨年を上回る約40人が受講しています。

1回目は、地酒と漬物の製造販売で全国に名を馳せる(有) 壽屋寿香蔵社長の横尾昭男氏(東根市)が「本物の漬物を求めて」と題し講演しました。横尾氏は、昭和41年の創業当時から現在に至るまでの経緯のほか、製造から販売までのノウハウについてユーモアを交えて表現。全国で添加物を使用しないで製造している食品会社は実に3社ほどしかないとした上で、「経営的に最も苦しかった時に、“食品添加物を一切使わない製品づくり”へ転換できたことが今の成功に結びついている」と語りました。

また、食品を製造する際に外すことのできない“磯部理念”を基本とする「①安心安全②ごまかしのない③味が良い④品質に応じた求めやすい価格」という“良い食品の4条件”の重要性を強調しました。



⑭おらほの町の酒蔵を訪ねる

(2月19日／鈴木酒造)



地酒「豊龍」の魅力に浸る

町内唯一の酒蔵、1700年創業の「鈴木酒造(鈴木和香子社長)」を訪ね、酒蔵の歴史や酒造りについて学ぶ「おらほの町の酒蔵を訪ねる」が、2月19日同酒蔵で開催されました。酒仙の会「豊龍蔵」と銘打つ鈴木酒造愛好会が主催したもので、町内外から地酒の「豊龍」を愛する20人が参加しました。

創業当時の設備がそのまま残っているとあって、「現在でも関東方面などからの見学者が耐えない」と話す鈴木社長。参加者たちは、歴史ある昔ながらの酒造りの工程を学び、改めて地酒「豊龍」の魅力に浸っていました。

⑮せん定講習会(3月1日／農業生産技術試験場)

有望視される中生種の普及拡大に向けて

「山園^{やまの}A-1」のせん定講習会が3月1日、県の農業生産技術試験場を会場に開催されました。中性種の有望品種として「山園A-1」を普及拡大することを目的に初めて行われたもので、町内のりんご生産者約40人が参加。JAさがえ西村山の菅井勝英嘱託指導士から、品種の特性を生かし求める好適な樹体にいかに早く持っていかなどのせん定方法を学びました。



⑯土づくり講習会(2月28日／農業団地センター)

安全・安心・おいしいは土づくりから

町の循環型農業を進めるため朝日堆肥センターを有効に活用し、安全・安心でおいしい農産物を生産しようと土づくり講習会が2月28日、農業団地センターで開催されました。参加者の多くは水稻生産者で約60人が参加。

堆肥の使い方や効果、堆肥センターの堆肥を実際に使ってみた際の結果やエコファーマーの認定制度などについて、参加者たちは熱心に聞き入っていました。



みんな の ひろば



学校から帰った子どもたちには
味噌おにぎりを食べさせたい



自家製米麴味噌づくりにかける

ひめさゆり会

代表 五十嵐美恵子さん(中沢)

今輝いて

農業改良普及所(現在の西山山農業技術普及課)が主催する農産物加工のための研修会に参加し、定められたコースを修了した「りんご農家の主婦」6人で、十年前に結成された「ひめさゆり会」。

農閑期に、自家製の米や豆を利用し米麴味噌を作ってみないかと声をかけ合ったのが結成のきっかけ。月一回などと定期的な活動はないが、それぞれが無添加の手づくり味噌づくりに取り組んでいる。

町地産地消推進協議会が主催する「味噌づくり講習会」にも、講師として依頼を受ける

ほどの本格的な味噌づくり。たまに、お互いに気が合った時に呼びかけ合い、お酒を酌み交わし楽しんでいる。

「おじいちゃんおばあちゃん育てた米や豆を原料にして、私が味噌をつくり、その味噌を家族のみんなが食べる。そんな些細なことでも、手づくり味噌を通して家族みんながつながっていると思えるのが嬉しい」と話す五十嵐美恵子代表。学校から帰った子どもたちには、やはり「味噌おにぎり」が一番という一人でもある。「素材選びから製造

までの全ての面において、じっくりと手間暇かけて作り上げる物には、絶対的な安心と安全が備わる。毎日取るものだから、家族には確かな物を食べさせたいですからね」と、食の安全性についても話す。

今後は、自家消費する分だけの製造から、少しでも収入が得られる取り組みを進めていければという思いがある。

「公民館活動などで味噌づくりをしたいというのであれば、なんなりとご相談を。どこへでも駆けつけます」と話してくれました。



各種大会の成績

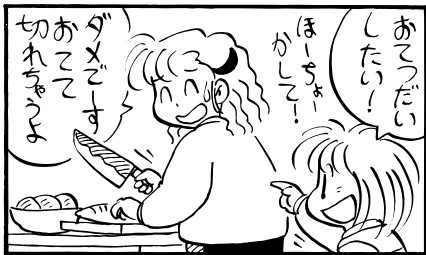
(○内数字は順位)

- 町民開宴会(2月19日)開宴センター一階和室/参加者14人
- ▽Aクラス(三段以上) ①鈴木千良(西船渡) ②鈴木三郎(西町) ③長岡茂(太郎一)▽Bクラス(三段以下) ①清野正幸(本町) ②飯野耕司(河北町) ③鈴木欣一(西町)
- 第10回町民インディアカ大会(3月5日)町民体育館/参加チーム数13
- ①バルサ(若月祐一郎監督) ②ガッチャン(齊藤利彦監督) ③ラッキープレンド(佐竹登喜善監督)
- 第14回風神杯争奪バレーボール大会(3月5日)大谷小学校体育館/参加チーム数12
- ①田中ディアフレンズ(白田征治監督) ②立小路エス(長岡啓一監督) ③峯壇B(長岡好男監督) ③東ぶっこみ(保利隆宏監督)
- 第25回記念杯ミニバスケットボール大会(3月4、5日)寒河江小学校体育館/参加チーム数 男子12 女子14
- ▽男子の部 ①宮宿ミニバスケット(伊藤淳監督) ▽女子の部 ②宮宿ミニバスケット(清野久憲監督)

山形県スポーツ少年団功労賞受賞

昨年度まで、町スポーツ少年団本部長を務めた花山忠夫さん(栄町)に、県スポーツ少年団本部より功労賞が贈られました。宮宿剣道スポーツ少年団の指導者、町の副本部長並びに同本部長として、長年活躍された功績が讃えられたものです。

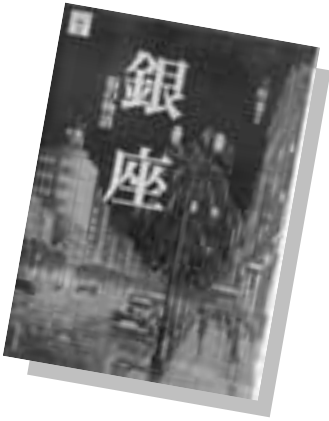




志藤 大谷三
桃ちゃん
百音ちゃん
真由美さん

遠距離恋愛のすえ5年前に結婚。二人を祝福するかのよう、すぐに桃ちゃんが誕生し、その2年後に百音ちゃんが誕生した。「家族が増えていくとともに、何事にも充実感が得られる毎日が続いていた」と語る修さん。しかし昨年の11月、そんな志藤家に一種の試練が訪れる。修さんの東京への単身赴任が決まったのだ。家族みんなにとって初めての経験。「短期間とはいえ、子どもたちもまだ小さかったので、最初はとて不安だった。でも、パパは東京で一人寂しい思いをしているのに、私たちはみんな一緒にいられるんだから…」と、自分にも子どもたちにも言い聞かせてきた真由美さん。「休みの時はいつもどこかに連れて行ってくれるはずのパパがいない!」。分かっているも桃ちゃん百音ちゃんにとっては辛い4ヶ月だったはず。寂しがっているパパを応援しようと、東京に会いに行った時の写真がこれ。子どもたちのホッとした表情以上に、修さんの表情がとて満足そう。「離れて生活してみて、家族みんなの心に思いやりの気持ちが生まれたような気がします」と語った真由美さん。この広報紙が発行される頃は、勤めを終えて帰ってきた修さんが、桃ちゃん百音ちゃんのこぐ自転車の後ろを追いかけているはず。

今月の新刊
おすすめ本!
銀座一街の物語



銀座一街の物語 三枝進著
今も昔も憧れの街・銀座。銀座四百年の歴史が紡ぎだした物語。二〇〇〇年和光ホールで開催され「銀座の街並展」図録をもとに新たな原稿を加え再編集。

黒田清 記者魂は死なず 有須和也著
大阪読売の社会部長として最強の社会部記者軍団「黒田軍団」を率いた伝説のジャーナリスト・黒田清。新しいジャーナリズムの在り方に挑戦し、最後まで全身で闘い続けた波乱の生涯を半世紀にわたる日記と膨大な資料で迎える。

アフガニスタンから世界を見る 春日孝之著
タリバンの誕生。バミヤン大仏の破壊。オマル師とビンラディンの関係。米英軍の侵攻による政権崩壊。第一線で取材を続けてきた新聞記者が「テロの時代」に突入する転回点となった現代史の謎に挑む。

- ▼辻 (古井由吉) ▼褐色の文豪 (佐藤賢一) ▼青山娼館 (小池真理子) ▼早春賦 (山田正紀) ▼宇宙日記—デスカバリー号の15日— (野口聡一) ▼宇宙旅行ガイド—140億光年の旅— (福江 純) ▼森光子—汗と涙のカーテンコール (杉本 禮) ▼幸運・不運が一目でわかる夢占い (ジュヌビエヴ・沙羅) ▼なぜか愛される美人の法則 (大原敬子) ▼道元禅師・今を生きることば (青山俊董) ▼功名が辻前篇 (NHK大河ドラマ・ストーリー) ▼新参教師 (熊谷達也) ▼やがての蛍 (澤田ふじ子) ▼かもめ食堂 (群ようこ) ▼座右の良寛—生きづらくなったら開いてください— (松本市壽) ▼窓際OL会社はいつもてんやわんや (斎藤由香) ▼永遠のなかに生きる (柳沢桂子)

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。

町に対する意見や要望、提案みなさんの周りでの出来事や話題、日ごろ感じていること、イラスト、質問などお待ちしております。

■あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場 政策推進課 地域情報係
(電話：67-2112 ファックス：67-2117)

■Eメール／kikaku@town.asahi.yamagata.jp
■URL／http://www.town.asahi.yamagata.jp

町民の声

楽しかったグリーンクラブ 次回もぜひ参加したい

グ リーン
クラブ

今年の活動で、特に楽しかったこと。それは、豆腐・



ドーナツ・肉まんづくりです。豆腐づくりは、友だちとワイワイ言いながらできたので、より楽しく感じられました。ドーナツ・肉まんづくりは、豆腐づくりでできたおからを使つて作りました。上手にできました。家に帰つてお母さんに食べてもらおうと、「おいしい！」と言つてくれました。とても楽しかったグリーンクラブ。また、来年もグリーンクラブに入りたいです。

【参加した白田紗己さん(宿)の「心に残ったグリーンクラブ」より】

昨 年に引き続きでの参加、どうもありがとうございます。

小学四年生から六年生までを対象に毎年実施しているグリーンクラブ。今年度は十人

の参加をいただき、全部で八回実施しました。野菜の定植と田植えから始まり、さくらんぼやいちご、夏野菜、そばの実、さつまいも、にんじん、大根、稲刈りなどの収穫体験のほか、ダチョウの卵の目玉焼きやトマト栽培の見学、バター、豆腐、ドーナツづくりなど、楽しい行事をたくさん用意させていただきました。来年度も、春から冬にかけて一年を通した活動を計画していますので、みなさんの参加をお待ちしています。

【産業振興課】

最近のお知らせ板 文字が小さく見づらいのでは？

経 費削減によるせいかわかりませんが、お知らせ板の様式が変わり、限られた情報スペースの中に多くの内容を掲載しなければならなくなり、文字の大きさも以前と比較し小さくなったような気がします。もっと見やすい紙面に工夫してもらえないでしょうか。

月 二回発行しているお知らせ板ですが、昨年の六月

一日発行分から、現在のようなA4縦書き見開き一枚(従来はB4版横書き)の様式にさせていただいています。従来の様式では、多い時にはB4版面刷りで四枚(平均して二〜三枚)にもなっていたため、欲しい情報がなかなか見つけれないとか見落とすなどということがあったというのを聞いています。

また、必要以上の内容が紙面の多くを占めていたこともあり、お知らせしなければならぬことがうまく伝わらなかった面もあったようです。

お知らせ事項は必要最小限の内容に、また、文章で伝えるよりも「①いつ②どこで③何を」などの事項を、それぞれ箇条書きで掲載した方が、より理解していただけるのではないかと。また、ある程度決められた場所に決まった内容を掲載することで、毎回あれこれと紙面を探さなくて済むのではないかと。以上の理由から、現在のような様式とさせていただきます。

長年みなさんから慣れ親しんでいただいた横書きの様式

平成18年2月15日発行の広報あさひまち2月号16ページ「今輝いて」の中にある山形北高等学校チアリーダー部B☆SPARKYの集合写真(右)は、山形新聞社からの提供によるものでした。

本来ならば本記事内で説明すべきことでしたが、校正上の誤りで掲載されませんでしたので、今回の紙面を使って報告させていただきます。



でしたが、より見やすく理解しやすい紙面にするため、可能な限りのメリットを考慮した結果とご理解願えれば幸いです。文字の大きさについては、限られた紙面と情報量などを考慮するとギリギリの線であることをご理解ください。

【政策推進課】



平成18年(2006年)
 ■2月1日~2月28日届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
太郎二	長岡 萌美	女	良紀・誉里子
新宿	布施 琴音	女	勝英・由香



おしあわせに

阿部 亨 (松程)		渡辺 有貴 (寒河江市)
渡邊 浩司 (宇津野)		門脇 ゆず (河北町)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
舟渡	堀 政一	義三郎
宇津野	長岡 泰一	泰美
常盤	阿部 一男	みわ
中沢	堀 健吾	雅彦
ふれあ荘	鈴木 辰見	かね
助ノ巻	鈴木 謙藏	本人
大沼	小林 ヒテノ	武司
立木	児珠 孝順	孝童
送橋	海野 すん	正美
ふれあ荘	阿部 義一	本人
沼向	菅井 シン	幸太
松程	鈴木 秀治	佐七

人口と世帯数

- 平成18年2月28日現在
- 人口 8,749人(減27人)
- 男 4,334人(減15人)
- 女 4,415人(減12人)
- 世帯数 2,556戸(減3戸)
- ()内 前月比



トリニティ先生の 英語にチャレンジ!

My husband, Zachary, and I finally went to the Asahi Shizenkan. We had a great day snowboarding. It was fun to see and talk with some of my students who were there too. We hope to get a pass for next year so we can enjoy the snow more often.

After snowboarding, my muscles were sore and tired so I tried Japanese Acupuncture. It is a very unique feeling but I feel it is a natural way to treat the body. I am very interested in natural health. Xango, is a juice supplement I take to stay healthy. This juice has helped me and many people I know with health problems or just staying healthy. If you like, you can find out more about it at www.xango.co.jp(ID# 98008134). I believe in this product so much that it is also my business. Please feel free to talk to me about it.

One of my favorite new hobbies is Sado. I have been attending Sado club at the Nishi-Machi Community Center. The New Years Sado was surprising as the macha was extraordinarily strong! I was dressed in a Kimono for the occasion and we were again confused by the many traditions. Each time Zachary and I participate, we are told which steps to use and the correct way to bow. We find Sado a beautiful expression of art and relaxing for the body and soul.

These are some of my hobbies I get to try and learn about in Asahi-Machi!



夫のザクリーと私は、念願だった朝日自然観に行きました。そして、スノーボードをして楽しい一日を過ごしました。そこで会った生徒たちとの会話も楽しい時間でした。もっとたくさん楽しめるように、来年はシーズン券を買うつもりです。

スノーボードの後、筋肉痛と疲労があったので、鍼治療に挑戦しました。それは独特の感覚でしたが、体に自然な治療法だと思いました。私は健康法にたいへん興味があり、健康を保つために「ザンゴ(=天然抗酸化作用のあるキサントンを豊富に含むマンゴスチンピューレ)」を飲んでます。これは健康の悩みを解消し、健康の維持に役立ちます。仕事にも効果があると考えています。www.xango.co.jp(ID# 98008134)に詳しい情報が載っています。

私の大好きな新しい趣味は茶道です。西町コミュニティーセンターでの茶道クラブに参加しています。初釜の抹茶はとても濃くて驚いてしまいました!私は着物を着て出席したのですが、多くの作法に戸惑いがありました。ザクリーと私は、参加するたびに作法やおじぎの仕方を教えてもらいます。茶道は芸術の美しい表現方法であり、心身がリラックスできるものだとわかりました。

この朝日町で趣味にも挑戦し、学びたいと思います。

朝日町フォトコンテスト

この町には「自然」「歴史・文化」「人」など、ふるさとを感じさせる宝物のような風景が数多く残っています。昭和29年11月に合併し一昨年50周年を迎えた朝日町。これを記念し「今残したいふるさとの宝」をテーマに募集したもののなかから、選りすぐりの作品を紹介します。

入選「祭りの日」



毎年訪れている大谷の風祭り。祭りに向かう人たちの配列と周りの風景とが合わさった情景が良くて写真に収めました。後姿で顔の表情などはありませんが、逆に趣があり、いろいろと想いを巡らせることができる写真だと思います。

朝日町の祭りは、どの祭りも祭りのには派手さはないけれども、地元の伝統や文化を守って受け継いでいて、地域の人々の“ほんとうの祭り”という感じがあって、だいへん好きで訪れています。この良さをいつまでも続けて欲しいと思います。

撮影者 海谷 定信 さん (山形市)

春夏秋冬

編集後記

▽卒業式を前に、大谷小学校でお茶会が行われました(表紙)。石川トキエ校長が、日本の伝統文化である茶道を通し、もうすぐ学年を築立っていく六年生たちに、今の思いを伝えようと企画したお茶会です。

▽床の間には「花枝自短長」と書かれた掛け軸。春はみんなに平等にやってくるが、その春を表現している花や草木の枝は、自ずと短いものもあるし長いものもある。そのそれぞれの持つ良さがあるからこそ、春の季節はひと際引き立つものになるという内容です。「みんなそれぞれ

れ違って当たり前。自分の良さを精一杯発揮して、何事にも前向きに頑張っていくってほしい」そんな思いが込められています。

▽地元で茶道を学んでいる自田智七美さん、川村梨乃さん、阿部実優さんもお手前を披露。私もお相伴にあずかりました。

▽奥深い茶道の世界を経験した子どもたち。慣れない正座にも耐え、心に残るお茶会となったようです。

里山の まだら模様が

告げる春

(はやけん)

